

篠山市

門前遺跡

—(国)176号交通安全施設等整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2011(平成23)年3月

兵庫県教育委員会

篠山市

門前遺跡

—(国)176号交通安全施設等整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2011(平成23)年3月

兵庫県教育委員会



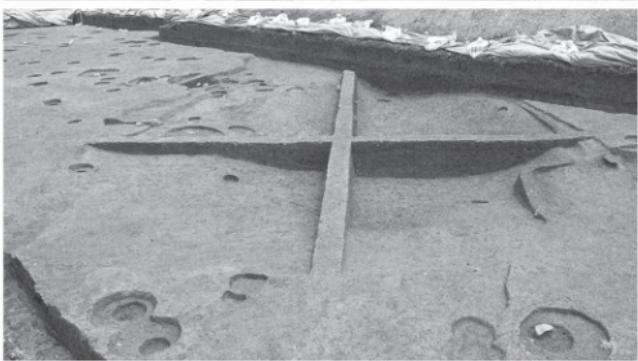
調査地遠景（南東から）



調査地遠景（東から）



A-2 地区
SX03 (南から)



A-2 地区
SX04畦 (北から)



A-2 地区
SX04 (東から)



調査地近景（西から）



調査地近景（南から）



A・B地区 全景（真上から）



C地区 全景（真上から）

例　　言

1. 本書は兵庫県篠山市長安寺字門前に所在する、門前遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、(国) 176号交通安全施設等整備事業に伴うもので、兵庫県丹波県民局長（柏原土木事務所：当時）の依頼を受けて、兵庫県教育委員会が平成16年度及び平成17年度に本発掘調査を実施した。
3. 出土品整理は兵庫県丹波県民局長（丹波土木事務所）の依頼を受けて、兵庫県立考古博物館が平成21年度と平成22年度に実施した。
4. 本書に使用した方位は国土座標（第V系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。（世界測地系に換算）
5. 地図は、挿図1：国土地理院「宮田」・「篠山」1/25000を使用した。
6. 執筆は、深江英憲と池田征弘が分担して行った。各執筆分担は本文目次の通りである。
7. 報告書の作成にあたっては、岡田美穂の補助のもと、編集は深江が行った。
8. 本書にかかる写真・図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館に保管している。

凡　　例

1. 確認調査トレンチの番号は、○Tと標記する。
2. 本発掘調査の地区名は、それぞれA-1地区・A-2地区・A-3地区・B地区・C地区と標記する。
3. 各遺構の名称は、土坑をSK、柱穴をP、その他の不定遺構をSXと標記し、それぞれ番号を付す。
4. 各遺物の名称は、土器は番号のみを付す。また、石製品はS、金属器はMと標記し、それぞれに番号を付す。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過.....	(深江英憲) 1
第1節 調査に至る経過	
第2節 調査の概要	
第3節 整理作業	
第2章 遺跡の位置と環境.....	(深江) 3
第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡	
第3章 発掘調査の成果	
第1節 平成16年度の調査.....	(深江) 5
1 A - 1 地区	
(1) 概要	
(2) 遺構	
(3) 遺物	
2 A - 2 地区	
(1) 概要	
(2) 遺構	
(3) 遺物	
3 A - 3 地区	
(1) 概要	
(2) 遺構	
(3) 遺物	
4 B 地区	
(1) 概要	
(2) 遺構	
(3) 遺物	
第2節 平成17年度の調査.....	(池田征弘) 11
1 C 地区	
(1) 概要	
(2) 遺構	
(3) 遺物	
第5章 まとめ.....	(池田) 16

挿 図 目 次

図1 門前遺跡と周辺の主な遺跡.....	4
----------------------	---

表 目 次

表1 A地区柱穴一覧.....	7
表2 B地区柱穴一覧.....	9
表3 C地区柱穴一覧.....	12
表4 出土土器 法量表.....	13~14
表5 出土石器 法量表.....	14
表6 出土金属器 法量表.....	15

卷頭写真図版目次

- 卷頭カラー写真1 調査地遠景（南東から）
調査地遠景（東から）
- 卷頭カラー写真2 調査地近景（西から）
調査地近景（南から）
- 卷頭カラー写真3 A・B地区全景（真上から）
C地区全景（真上から）

図版目次

- 図版1 確認調査トレンド位置図
図版2 本発掘調査配置図
図版3 調査区平面図（A-1地区）
図版4 調査区平面図（A-2地区）
図版5 調査区平面図（A-3地区）
図版6 調査区平面図（B地区）
図版7 調査区平面図（C地区）
図版8 調査区断面図（A-1地区）北壁
図版9 調査区断面図（A-2地区）北壁
図版10 調査区断面図（A-3地区）北壁
図版11 調査区断面図（A地区）北壁注記
図版12 調査区断面図（C地区）南壁
- 図版13 A-1地区 遺構（土坑・不定遺構）
図版14 A-2地区 遺構（土坑・不定遺構）
図版15 A-3地区 遺構（不定遺構）
図版16 A地区 遺構（ピット）
図版17 B地区 遺構（土坑）
図版18 B地区 遺構（土坑・ピット）
図版19 C地区 遺構（土坑）
図版20 C地区 遺構（ピット）
図版21 出土土器①
図版22 出土土器②
図版23 出土金属器

写真図版目次

- 写真図版1 A-1・A-2地区 全景（西から）
写真図版2 A-1地区 全景（西から）
A-1地区 全景（東から）
写真図版3 A-2地区 全景（東から）
A-3地区 全景（東から）
写真図版4 A-1地区 SK01畦（南東から）
A-1地区 SK01（上から）
A-1地区 SK03断面（南から）
写真図版5 A-1地区 SX01（東から）
A-1地区 SX02畦（東から）
A-2地区 SK08畦（西から）
写真図版6 A-2地区 SK07畦（東から）
A-2地区 SK07（北から）
- A-2地区 SX03畦（北から）
写真図版7 A-2地区 SX03（南から）
A-2地区 SX04畦（北から）
A-2地区 SX04（東から）
写真図版8 A-3地区 SK09畦（南東から）
A-3地区 SK09（南東から）
A-2地区 P12・P60断面
(東から)
写真図版9 A-2地区 P23断面（東から）
A-2地区 P38断面（南から）
A-2地区 P40断面（東から）
写真図版10 A-2地区 P53断面（南から）
A-3地区 P53（上から）

A - 3 地区	P54断面（東から）	写真図版20	出土土器 1 (A地区)
写真図版11	A - 2 地区 P56・P57断面 (南西から)		出土土器 2 (A地区)
	A - 2 地区 P58断面（東から）	写真図版21	出土土器 3 (A地区)
	A - 2 地区 P59断面（東から）	写真図版22	出土土器 4 (A地区)
写真図版12	B地区 全景（西から）		出土土器 5 (A地区)
写真図版13	B地区 東部（西から） B地区 SK02（東から） B地区 SK04（西から）	写真図版23	出土土器 6 (A地区) 出土土器 7 (B地区)
写真図版14	B地区 P22断面（東から） B地区 P23断面（東から） B地区 P24断面（東から）	写真図版24	出土土器 8 (B地区) 出土土器 9 (A地区・C地区) 出土石器 1
写真図版15	C地区 全景（南東から）	写真図版25	出土金属器 1
写真図版16	C地区 西部（南東から）	写真図版26	出土金属器 2 -①
写真図版17	C地区 SK01断面（南から） C地区 SK02（東から） C地区 P01断面（南から）	写真図版27	出土スラグ 1 出土スラグ 2
写真図版18	C地区 P02断面（南から） C地区 P04断面（西から） C地区 P13断面（北から）	写真図版28	出土土器10 (C地区) 出土土器11 (C地区)
写真図版19	C地区 P14断面（東から） C地区 P21断面（南から） C地区 P24断面（南から）	写真図版29	出土土器12 (C地区) 出土壁土 1 出土壁土 2 -①
		写真図版30	出土壁土 2 -②
		写真図版31	出土壁土 3 -① 出土壁土 3 -②

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経過

兵庫県丹波県民局柏原土本事務所（篠山土本事務所：当時）では、国道176号線の道路を拡幅、歩道等を設置し、大型車両の通行等に耐えうる交通安全対策の一環として、(国) 176号交通安全施設等整備事業を計画した。当該事業池については、平成15年4月に2度の分布調査（遺跡調査番号：2003032・2003033）を実施し、遺物散布が認められた部分について、平成15年11月に確認調査（遺跡調査番号：2003209）を実施した結果（図版1）、県道長安寺西岡屋線と国道176号線が合流する長安寺三叉路付近と、その西側の薬師川東岸から東側へ約160mまでの事業範囲において、柱穴等の遺構、土器及び鉄釘〔M1（図版23写真図版25）：4Tより出土〕等の遺物が検出され、当該地に埋蔵文化財の存在が明らかとなったため（門前遺跡として新規登録）、本発掘調査が必要となった。

当該事業箇所は、国道176号の西側沿線部分と、県道長安寺西岡屋線と国道176号が合流する長安寺三叉路南側である。本発掘調査は、兵庫県丹波県民局長からの依頼〔平成16年4月5日付け「丹波（柏土）第1005号〕に基づく平成16年度の調査（遺跡調査番号：2004149）、及び同県民局長からの依頼〔平成17年8月5日付け「丹波（柏土）第1380号〕に基づく平成17年度の調査（遺跡調査番号：2005150）の2箇年で実施した。

2箇年の調査の体制は、以下の通りである。

1. 平成16年度の調査（遺跡調査番号：2004149）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所

調査第2班 主査 吉識 雅仁

主査 深江 英憲

調査期間：平成16年6月7日～平成16年7月16日

調査面積：1,063m²

1. 平成17年度の調査（遺跡調査番号：2005150）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所

調査第2班 主査 吉識 雅仁

主査 池田 征弘

調査期間：平成17年10月5日～平成17年11月7日

調査面積：307m²

第2節 調査の概要

1. 平成16年度の調査（図版2）

平成16年度調査は、国道176号南側、及び国道と県道長安寺西岡屋線の三叉路付近にあたり、車両の

交通量が多いこと、また隣接する水田が作付け直後で、用水が必要な時期であること、更に隣接する民家が新築工事中で、車両の進入路確保が必要であること等を考慮した調査区の設定が必要となった。このため、国道南側の調査区をA地区と呼称して更に3つの小地区に分割し、それぞれ東側からA-1地区、A-2地区、A-3地区を設定した。また、国道北側で長安寺三叉路の東側に当たる地区については、B地区と呼称した。

2. 平成17年度の調査（図版2）

そして、平成17年度の調査は、A地区的東側、国道南側沿線である。調査区は、前年度の調査に引き続く形となるため、便宜上C地区と呼称した。

第3節 整理作業

1. 平成21年度の出土品整理作業

平成21年度の出土品整理作業は、接合補強、実測、復元、遺物写真撮影等を行った。

整理作業に係る、体制は以下の通りである。

- ・整理保存班 主査 篠宮 正
- ・調査第2班 主査 深江 英恵
主査 池田 征弘
- ・嘱託職員（遺物接合補強・復元作業等） 西口 由紀 又江 立子 奥野 政子
- ・嘱託職員（遺物実測等） 岡田 美穂

1. 平成22年度の出土品整理作業

平成22年度の出土品整理作業は、図面補正、トレース、レイアウト、報告書印刷・刊行を行った。

整理作業に係る、体制は以下の通りである。

- ・整理保存課 主査 篠宮 正
- ・企画調整課 主査 深江 英恵
- ・調査第2課 主査 池田 征弘
- ・嘱託職員（図面補正・トレース・レイアウト） 岡田 美穂

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

門前遺跡が所在する篠山市長安寺字門前は、中世莊園として知られる丹波国大山莊の莊内東端にあたり、北西側に大山莊推定中心域である一印谷地区、大山莊指定発祥域である大山新地区が存在する。

一印谷地区、大山新地区は、夏栗山から南西方向に延びる樹枝状の山稜と大山谷川、大山川に挟まれた地城で、大山地区的中央部から東部に位置する。一印谷地区は、北へ奥まった細い谷状の地形で、大山新地区は、大山川の河岸段丘上にある。この内、一印谷地区は、谷状地に複数の小谷が複雑に入り組む地形を呈する。また、その谷は、谷奥から谷出口の間に存在する池で地形的に二分され、高低差のある谷奥側は階段状の圃場が形成され、池から谷出口にかけては、東部山稜から西部に流れ大山川に合流する薬師川に向かって圃場が形成される。当該地は、その東端にあたる。地形的には、大山川と薬師川の合流点付近に形成された扇状地状の沖積地にあたり、扇状地の末端は両河川の浸食作用によって、比高差約4mの崖が形成される。一方、当該調査地の北側は、国道176号に合流する県道長安寺西岡屋線に沿って、比高差約3mの段丘崖となって一段高くなっている。現在その段丘上には長安寺の集落が形成されている。

篠山市長安寺は、中世に存在した記録に残る黄檗宗長安寺が地名の起源になったとされる。その遺称地は当該地の北側段丘上にあり、「堂田」・「庫裡の町」等の小字が残っている。長安寺は、大山莊地頭中沢氏の菩提寺と伝えられる寺で、文献上では、永和3年（1377）に初見し、大山城の滅亡とともに衰退したとされる。また、当該調査地の小字が「門前」であり、長安寺の遺称を伝える地名である。

当該地区周辺は、大山莊関連の中世遺跡をはじめとして、多くの遺跡が分布している。本項では、門前遺跡周辺の中世を中心とした遺跡について述べる。

西田井遺跡（11）は、弥生土器や中世土器の散布地である。東河内遺跡（10）も中世土器の散布地だが、「大山莊西田井村水差図」に建物跡の描写がある。

北山手遺跡（13）は、古墳時代と中世の集落遺跡で、古墳時代後期の土坑や柱穴、12世紀前半頃の掘立柱建物等を検出している。

庄谷窯跡（7）、庄谷2号窯（8）、池谷窯跡（9）は奈良時代の窯跡とされるが、須恵器片や窯体片を探集しているのみで、実態は不明である。

中垣内遺跡（3）、殿垣内A遺跡（4）、殿垣内B遺跡（5）は、中世の集落跡として知られる。遺跡は、何れも圃場整備に伴う確認調査で調査されたが、この内、殿垣内B遺跡は、「大山莊」地頭中沢氏館の推定地とされる。

中世の城館跡は、大山城址（6）、平井山城跡（12）、夏栗山砦跡（15）が知られる。大山城址は、篠山川と大山川の合流点付近の浸食で残った西岸の、河岸段丘の先端に位置する。中沢氏築造の台地城で、武者隠し、横堀、土塁等の遺構が良好に遺存している。三駕迦山山中の山城である平井山城跡、夏栗山山中の山城である夏栗山砦跡は、調査歴はないが土塁や堀切が遺存している。

中世寺院では、長安寺跡（2）、高藏寺坊跡（14）が知られる。長安寺跡は、前述の通り、大山城城主で大山莊地頭中沢氏の菩提寺と伝えられる寺院であり、現在の集落名の由来ともなっている。七堂伽藍を備えたとされ、鐘楼跡等の遺構が遺存している。



第1図 門前遺跡と周辺の主な遺跡 (1 : 25,000)

1 門前遺跡	6 大山城址	11 西田井遺跡
2 長安寺跡	7 庄谷遺跡	12 平井山城跡
3 内垣内遺跡	8 庄谷2号窯	13 北山手遺跡
4 殿垣内A遺跡	9 池谷窯跡	14 高藏寺坊跡
5 殿垣内B遺跡	10 東河内遺跡	15 夏栗山遺跡

第3章 発掘調査の成果

第1節 平成16年度の調査

1. A - 1 地区

(1) 概要

A - 1 地区～A - 3 地区・B地区の4地区ともに耕土及び盛土直下から、鎌倉時代～室町時代の柱穴・土坑・溝・不定遺構を検出した。遺構面は、B地区西端が最も高い位置にあり、そこを頂点として、A - 3 地区のある薬師川の方に向かって傾斜する一方、A - 1 地区の方に向かってゆっくりと下がっており、遺構検出面は、標高約199.75m～199.85mにある。

(2) 遺構

検出された遺構は、主に柱穴、土坑である。また、土坑のうち、比較的定形ながら用途が不明のものや不定形で用途不明のものについては、不定遺構とした。以下、各遺構について述べる。

・土坑（図版13 写真図版4）

土坑は、SK01、SK03の2基を検出した。

SK01は、直径約112cmのやや歪みを持つ円形を呈し、深度約13cmの浅鉢状の土坑である。遺物は出土しなかったが、埋土の中間層以下（2～3層）には、炭化材片や炭粒が認められる。

SK03は、南北長約80cm、東西長約50cmを測る楕円形を呈し、深度約30cmの深鉢状の土坑である。

・不定遺構（図版13 写真図版5）

不定遺構は、SX01、SX02の2基を検出した。

SX01は、南北長約205cm、東西長約135cmを測る隅丸長方形を呈し、深度約8cmの浅い落ち込みである。埋土は炭粒を含み、角繩が散在している。遺物は、青磁碗片（4）、鉄釘（M7）が出土している。

SX02は、南北長約240cm、東西長約410cmを測る不定の長方形を呈し、深度約10cmの浅い落ち込みである。埋土は炭粒や焼土粒を含む。遺物は、青磁碗片（5）が出土している。

・柱穴（図版3）

柱穴は、南北方向、或いは東西方向を主体として群を成しているが、建物としての復元は困難である。また、断ち割り等の記録が可能なものも僅少であったため、遺構平面図のみでの掲載である。遺物は、P06より土師器皿（1）、土師器土鍋（2）、鉄釘（M18）、P07より丹波焼甕（3）が出土している。

(3) 遺物

①土器（図版21 写真図版20・21）

1は、土師器の小皿の体部である。底部付近から浅く立ち上がり、細く丸味を持つ口縁部を持つ。体部外面にはスピオサエが残る。

2は、土師器土鍋の口縁部である。やや内傾する肩口から上方に立ち上がる口縁部を持つ口縁端部は

外頬気味に面を持つ。方部外面にはタタキ調整が残る。

3は、丹波焼壺の口縁部付近である。稜の緩い「く」の字の屈曲からやや外反しながら立ち上がる。

4・5は、青磁碗の体部及び口縁部である。体部はやや内済気味に立ち上がり、丸味のある口縁部を持つ。体部外面には、退化した蓮弁文が施される。

②金属器（図版23 写真図版25）

M7・M8・M16～M18は鉄釘である。

2. A-2 地区

(1) 概要

当該地区は、A-1地区の西側に位置し、南北の農業用水路で分割されているものの、地形的に若干高くなっていくが、遺構検出面はほぼ同様の標高約199.60m～199.80m上にある。

(2) 遺構

検出された遺構は、主に柱穴、土坑、不定遺構である。以下、各遺構について述べるが、柱穴については、比較的検出状況が良好なものうち、断ち割り状況を記録したものに限って述べる。

・土坑（図版14 写真図版5・6）

土坑は、SK07、SK08の2基を検出した。

SK07は、南北長約165cm、東西長約250cmを測る長方形を呈し、深度約13cmの浅い土坑である。埋土は炭粒や焼土粒を含み、土坑の中央部付近に中礫級の角礫が集積している。遺物は、土師器皿（9）・丹波焼桶鉢（10）が出土した。

SK08は、直径約80cmを測る不定円形を呈し、深度約50cmの比較的深い土坑である。埋土は、炭粒や焼土粒を多量に含む。遺物は、丹波焼壺（7・8）が出土した。

・不定遺構（図版14 写真図版6・7）

不定遺構は、SX03、SX04の2基を検出した。

SX03は、一辺約240cmを測る隅丸方形を呈する深度約10cmの浅い落ち込みの北側に、南北長約80cm、東西長約170cmを測る隅丸長方形を呈する深度約5cmの浅い張り出しを持つ。埋土は炭粒や焼土粒を含む。遺物は、土師器皿（13）、丹波焼桶鉢（14）が出土している。

SX04は、南北検出長約780cm、東西長約510cmを測る不定の長方形を呈し、深度約40cmの落ち込みである。遺構の北東隅では、北方向に伸びる溝状の遺構が認められる。集水枠の様な機能を持ったのではないかと考えられる。埋土は炭粒や焼土粒を含む。遺物は、青磁碗（6）、土師器羽釜（15）、鉄釘（M3・M11・M12・M15）が出土している。

・柱穴（図版16 写真図版8～11）

柱穴は、A-1同様、南北方向、或いは東西方向を主体として群を成しているが、建物としての復元は困難である。また、断ち割り等については、検出状況が比較的良好なものを中心に記録をとった。各

柱穴の内容については、別表（表1）に記載した。図化した主な柱穴は、P12・P23・P38・P40・P54・P56～P60である。遺物は、P23より容器状の鉄製品（M21）、P25より土師器鍋（1）、P40より青磁碗（3）が出土している。

表1 A地区柱穴一覧

遺構名	検出直径(cm)	床部深度(cm)	柱痕直径(cm)	柱痕深度(cm)	遺物	備考
P12	32	42	13	42		P60を切る
P23	44	76	26	76	容器状鉄製品(M21)	
P38	42	67	20	67		
P40	35	52	14	52	青磁碗(3)	
P53	31	38	16	28	丹波焼体部片	図化できず
P54	26	51	11	47		
P56	42	61	21	61		P57を切る
P57	(18)	40	10	40		P56に切られる
P58	40	54	18	50		
P59	54	79	26	74		
P60	(32)	34	16	31		P12に切られる

(3) 遺物

①土器（図版21 写真図版20～24）

6は、青磁碗の口縁部付近である。緩やかに外傾する体部に、やや「く」字状に屈曲する口縁部を持つ。口縁端部は、外側に面を持つ。

7は、丹波焼窯の口縁部付近である。体部は、方部から口縁部に向かってやや内傾し、口縁部で短く外反する。口縁部は断面が「N」字状屈曲し、上部で面を成す。体部内面には接合痕が残り、外面にはヘラ状の工具痕が見える。

8は、丹波焼窯の口縁部である。7と同様断面が「N」字状を呈するが、比較的外反が緩い。

9は、土師器の小皿である。口縁部付近で僅かに外反し、やや細身の口縁部を持つ。

10は、丹波焼擂鉢の底部である。内面に僅かに擂目が残り、使用頻度が高かさが窺える。

11は、土師器鍋である。僅かに脛らみをもって上方に立ち上がる体部に、細身で玉縁状の口縁部を持つ。体部外面には、タタキが残る。

12は、青磁碗の口縁部付近である。外傾気味に立ち上がる体部にやや丸味のある口縁部を持つ。外面には退化した割花文が施される。

13は、土師器小皿である。やや丸味を持った底部から口縁部付近で大きく外反する体部で、丸味のある口縁部を持つ。体部外面にはユビオサエが残る。

14は、丹波焼擂鉢の口縁部付近である。外傾する体部で、断面三角形状の大きく内側に屈曲する口縁部を持つ。体部から口縁部の内面にはヘラ描きの擂目が残る。

15は、土師器羽釜の口縁部である。上方に立ち上がる口縁部の外面に、断面台形状の突出部を持つ。口縁端部は上方で面を持つ。

16は、土師器小皿である。やや外傾しながら短く立ち上がる体部で、丸味のある口縁部を持つ。体部外面には、ユビオサエが残る。

②石製品（図版21 写真図版24）

S1は、砾石と考えられる。一方が欠損しており、全体の大きさは不明だが、使用面には擦痕が顯著に残る。

③金属器（図版23 写真図版25・26）

M3・M11・M12・M15は、鉄釘である。

M21は、用途が不明だが、容器状の鉄製品と考えられる。

3. A - 3 地区

(1) 概要

当該地区は、元々宅地跡であったため、搅乱等の影響を甚だしく受けている。遺構検出面は、宅地に伴う盛土下で、地形が薬師川へ向かって、南西側へ大きく傾斜しており、標高199.25m～200.15mと1m近い比高差を持っている。

(2) 遺構

検出された遺構は、主に柱穴、土坑であるが、上記の通り、搅乱が著しい上、薬師川へ向かって傾斜していく地形の変換点でもあり、遺構の密度としては希薄である。以下、各遺構について述べるが、柱穴については、比較的検出状況が良好なものうち、断ち割り状況を記録したものに限って述べる。

・土坑（図版15・16 写真図版8）

土坑は、SK09の1基を検出した。

SK09は、一辺約300cmを測る不定方形状を呈し、深度約40cmの土坑である。埋土は炭粒や焼土粒を含む。遺物は、東播系須恵器鉢（20）が出土した。

・柱穴（図版16 写真図版10）

柱穴は、北側で比較的まとまって検出したが、密度が疎らで、建物としての復元は困難である。また、断ち割り等については、唯一検出状況が良好なP33の記録をとった。柱穴の内容については、A - 2 地区の柱穴内容を記載した別表（表1）にまとめた。遺物は、P33については、床面付近の埋土に須恵器・丹波焼の体部片が多量に集積していたが、國化には至らなかった。また、P23より容器状の鉄製品（M21）、P25より土師器鍋（1）、P40より青磁碗（3）が出土している。

(3) 遺物

①土器（図版21 写真図版20～24）

17は、瓦質土器鍋である。拉げた球形の体部に上方に直行する口縁部を持つ。口縁端部は細身の玉縁状を呈する。退部外面は横方向のタキ痕が残る。

18は、土師器の小皿である。体部は、大きく外傾し、細身の口縁部を持つ。体部外面には、ユビオサエが残る。

19は、丹波焼擂鉢である。内面にヘラ書きの描目が残る。

- 9は、土師器の小皿である。口縁部付近で僅かに外反し、やや細身の口縁部を持つ。
- 20は、東播系須恵器鉢の口縁部付近である。体部は大きく外傾し、端部で肥厚する口縁部を持つ。
- 21は、東播系須恵器鉢の口縁部付近である。体部は大きく外傾し、端部で内側に肥厚する口縁部を持つ。
- 22・23は、縄文土器の体部である。僅かに内碗する体部外面には縦方向の縄文が認められる。また、23の外面には、突帯を付す。

4. B地区

(1) 概要

当該地区は、国道176号と県道長安寺西岡屋線に挟まれた調査区である。遺構検出面は、後世の水田化の影響で、北側が一段高く、A地区に面した南側が一段低くなっている。標高は199.70m～200.30mである。

(2) 遺構

検出された遺構は、主に柱穴、土坑、溝である。以下、各遺構について述べるが、柱穴については、比較的検出状況が良好なものうち、断ち割り状況を記録したものに限って述べる。

・土坑（図版17・18 写真図版12・13）

土坑は、SK01～SK04の4基を検出した。

SK01は、南北長約255cm、東西長約165cmを測る不定長方形を呈し、深度約30cmの土坑である。埋土は炭粒を含む。遺物は、丹波焼甕（24）、土師器小皿（25）が出土した。

SK02は、南北長約420cm、東西長約330cmを測る不定隅丸長方形を呈し、深度約30cmの土坑である。埋土は炭粒や焼土粒を含み、須恵器等の土器片の他、細蹠、中蹠が集積している。遺物は、丹波焼搗鉢（26）が出土した。また、スラグ（M23）も混入している。

SK03は、検出南北長約180cm、東西長約235cmを測る不定長方形を呈し、深度約22cmの浅い土坑である。埋土は炭化物を含む。遺物は、丹波焼甕（27）が出土した。

SK04は、南北長約59cm、東西長約71cmを測る不定梢円形を呈し、深度約76cmの深い土坑である。埋土には、多量の角蹠が集積している。遺物は、鉄釘（M13）が出土した。

・柱穴（図版18 写真図版14）

柱穴は、中央部分に若干の空闊地があり、東側で東西方向及び南北方向の群があり、西側で東西方向を主体とする群が見受けられる。また、断ち割り等については、比較的検出状況が良好なP22～P24の3基について記録をとった。また、柱穴の内容については、別表（表2）にまとめた。遺物は、P08より土師器皿（28・29）、P03より土師器高坏（31）、P05より土師器坏（30）が出土している。

表2 B地区柱穴一覧

遺構名	検出直徑(cm)	床部深度(cm)	柱痕直徑(cm)	柱痕深度(cm)	遺 物	備 考
P22	38	57	16	57		
P23	40	56	19	56		
P24	39	56	15	56		

・溝（図版6）

検出した溝は、比較的小規模のもので、細長い凹み状のものであるが、遺構内から遺物が出土しており、便宜上溝状遺構として分類した。遺構内で遺物を図化できたのは、SD02である。

SD02は、南北長約110cm、幅約25cmである。遺物は、鉄釘（M19）が出土した。

(3) 遺物

①土器（図版22　写真図版22・23）

24は、丹波焼甕の底部である。

25は、土師器の小皿である。体部は、大きく外傾し、細身の口縁部を持つ。

26は、丹波焼擂鉢の口縁部である。外傾する体部に、僅かに内側へ突出して面を成す口縁部を持つ。

27は、丹波焼甕の口縁部である。口縁端部付近で短く外反し、「N」字状に屈曲する。

28は、土師器の皿である。体部は大きく外傾し、丸味のある口縁部を持つ。体部外面には、ユビオサエが残る。

29は、土師器の皿である。体部は外傾し、口縁部付近で僅かに聞く。やや細身で丸身のある口縁部を持つ。体部外面には、ユビオサエが残る。

30は、土師器の壺である。僅かに内窪する体部で、細身の口縁部を持つ。口縁部付近外内面には、ユビオサエが残る。

31は、土師器の高壺の壺部である。大きく外傾する体部で、口縁部にかけて外反する。口縁部は、細身で丸味を持つ。

32は、土師器の壺である。外傾する体部で、丸味のある口縁部を持つ。

33は、須恵器の高壺の脚部である。裾広がりの脚部と壺部の接合部付近には、4箇所の円孔が施される。

34は、須恵器の高壺の壺である。底部付近で縫をもって立ち上がり、口縁端部で面を持つ。

35は、須恵器の壺身である。口縁部付近のみで、受部から上方に立ち上がる。

36は、瓦器碗である。内湾しながら立ち上がる体部で、丸味のある口縁部を持つ。底部には、やや断面逆台形状の高台を付す。体部外面にはユビオサエが残る。

②石製品（図版22　写真図版24）

S2は、スクレーバーと考えられる。

③金属器（図版23　写真図版25～27）

M2、M4～M6、M9・M10、M14は、鉄釘である。

M19は、鉄釘の茎部である。

M20は、包丁の刃部と考えられる。

M22は、用途不明の鉄製品である。

その他、M23～M25はスラグである。

第2節 平成17年度の調査

1. C地区

(1) 概要

C地区はA・3区の南東側に隣接し、全体の中でも最も東側に位置している。

調査前は食堂が位置しており、国道の路面に合わせて盛り土がなされていた。その約1.4mの盛土を除去すると標高200.2mの高さで旧の水田に至る。調査区中央付近に東西方向の溝状の搅乱が存在するが、旧の水田の境界部に流れる水路と考えられる。この部分を境に地形が変化している。

搅乱の北側の地形はおむね平坦で、北西から南東に向かって緩やかに下がっている。この部分では土坑2基・ピット約70基などが検出された。ピットから出土した土器からすると14世紀後半～15世紀前半頃のものと思われる。また、部分的に中世の遺構面下にも包含層（図版12の8・10層）が存在し、弥生土器、奈良・古墳時代の須恵器が出土している。

搅乱の南側はもともとの地形が南に下がる斜面で、最も低い所で北側に比べて1.2mほど低い。そのため、湿地状を呈しており、遺構はほとんど検出されなかった。

(2) 遺構

・土坑（図版19 写真図版16・17）

SK01

東西128cm、南北120cmの平面方形で、深さは14cmである。埋土から土師器皿破片、丹波焼破片、須恵器破片が出土している。

SK02

平面長方形で、長さ2.0m以上、幅0.8m以上、深さ10cmである。埋土には丹波焼壺破片（54）とともに被熱を受けた壁土（55～62）が多く含まれていた。

・柱穴（図版20 写真図版17～19）

柱穴は70基程度検出された。このうち、遺物が出土しているのは21基である（表3）。現地形に則して、東西あるいは南北に並ぶように見えるが、建物に復元できるものはない。直径は20～60cm程度のものがあり、深さも深いもので70cm程度のものがある。柱を抜き取った後に石を入れているものがある。埋土からは土師器皿片が出土したものが多く、壁土（66～70）の出土も目立っている。

(3) 遺物（図版22 写真図版28～30）

37～43・53・66～70は柱穴から出土したものである。

37は須恵器捏鉢である。口縁部の拡張は弱く、口縁部内面をくぼめている。

38～41は土師器皿である。39・40は底部のユビオサエが強く認められる。

42は須恵器壺である。口縁部はあまり拡張しない。

43は龍泉窯系青磁碗である。口縁端部が外反している。

66～70は壁土である。いずれも細片であるが、平坦な面や角材の痕跡を確認できる。66・67・68では木舞状の角材の痕跡が確認でき、67・70では両面に平坦な面が確認できる。面間の厚さは2.5cmである。

- 44~51は包含層から出土したものである。44~48は中世遺構面下層より出土したものである。
- 44は弥生土器長頸壺である。外面はタテハケ、口縁部内面はヨコナデ、体部内面はナデが施されている。
- 45は須恵器杯蓋である。天井部外面は回転ヘラケズギが施され、後は鋭い。TK23型式と考えられる。
- 46は須恵器高杯の脚部で、7世紀頃のものと思われる。
- 47は須恵器杯Bである。口縁部が開いている。48とともに8世紀後半頃のものと思われる。
- 48は須恵器杯B蓋である。天井部は平坦で、口縁部はやや屈曲する。
- 49は瓦器碗である。表面はかなり摩滅しており、暗文は確認できない。
- 50は天目碗の底部である。瀬戸美濃産と考えられる。
- 51は土師器皿である。いわゆるへそ皿である。
- 53は丹波焼擂鉢である。擂目は1本引きで、間隔は密でない。色調は赤褐色である。
- 54~62はSK02から出土したものである。
- 54は丹波焼甕の肩部の破片である。肩部に自然釉が掛かっている。色調は暗灰色である。
- 55~62は被熱を受けた壁土である。55は厚さ10cmの塊で、同じ方向に並んだ径1cmの心材の痕跡が2箇所認められる。土内には径1cm以下の礫・砂粒が含まれ、茎状の痕跡も認められる。その他は細かく砕けた破片で、平坦な面や角材の痕跡が認められるものが多い。角材の幅は1.3cmである。

表3 C地区ピット一覧

遺構名	直径(cm)	深さ(cm)	遺 物
P01	70×50	40	須恵器程鉢(37)、丹波焼甕破片、壁土(63・64)
P02	28	23	土師器皿細片、壁土
P03	25	45	土師器細片、丹波焼擂鉢(53)
P04	60	70	土師器皿(38)、須恵器程鉢片、丹波焼甕破片、壁土(67・68)
P06	45×30	25	須恵器細片、鉄釘、壁土
P08	32	16	土師器細片、須恵器皿片
P09	25	24	土師器皿(39)、壁土(66)
P10	25	23	土師器細片
P11	28	52	土師器細片、壁土(65)
P13	45×30	42	丹波焼甕破片、壁土(70)
P14	53×44	50	土師器皿細片、壁土(69)
P16	35×25	19	土師器細片、須恵器破片
P17	40	35	土師器皿(40)、壁土
P18	32	8	土師器皿(41)、須恵器破片
P21	30	25	土師器皿
P23	32	20	須恵器碗
P24	44	44	土師器皿、須恵器甕破片、壁土
P26	30	26	土師器皿、須恵器甕(42)
P27	25	29	土師器細片
P29	25	20	焼土塊
P30	60×40	12	青磁碗(43)

表4 出土土器 法量表

No.	種別	基壇	出土地区	出土遺構	層位	法量(cm)			残存			備考
						口径	器高	底径	口縁	底	他	
1	土師器	重	A-1	P06		(8.5)			1/3			
2	土師器	溝	A-1	P06		(18.7)	(4.6)	-	1/12			
3	陶器(丹波焼)	甕	A-1	P07		(11.0)	(4.0)	-	1/4		頸部1/4	
4	青磁	碗	A-1	SX01		(13.8)	(2.55)	-	1/12		体部1/12	
5	青磁	碗	A-1	SX02		(13.7)	(3.7)	-	1/8		体部1/8	
6	青磁	碗	A-2	SX04 Ⅱ区		(13.2)	(2.65)	-	1/7			
7	陶器(丹波焼)	甕	A-2	SK08		(48.0)	(14.45)	-	1/20			
8	陶器(丹波焼)	甕	A-2	SK08		(58.0)	(5.7)	-	1/14		頸部1/14	
9	土師器	重	A-2	SK07		(10.4)	2.0	-	1/4	1/4	体部1/4	
10	陶器	攢鉢	A-2	SK07		-	3.95	14.0		1/4		
11	土師器	堀	A-2	P25		(33.0)	(10.6)	-	1/7			
12	青磁	碗	A-2	P40		(13.8)			1/7			
13	土師器	小皿	A-2	SX03		(7.8)	2.1	-	1/5			
14	陶器(丹波焼)	攢鉢	A-2	SX03		(23.0)	(6.7)	-	1/30			
15	土師器	堀	A-2	SX04		(25.0)	(5.0)	-	1/5			
16	土師器	小皿	A-2		面精査 &側溝	7.5	1.9	5.1	完存		体部完存	
17	瓦質上器	火鉢	A-3	P51		(19.35)	(10.1)	-	1/9		体部1/7	
18	土師器	重	A-3	P51		(9.1)			1/5			
19	陶器(丹波焼)	攢鉢	A-3	P48		-	(3.5)	-			小片のみ	
20	須恵器	鉢	A-3	SK09		(27.0)	(3.9)	-	1/12			
21	須恵器	鉢	A-3		包含層	(22.5)	5.35	-	1/12			
22	縁文	甕	A-3		包含層	-					小片のみ	
23	縁文	甕	A-3		包含層	-					小片のみ	
24	陶器(丹波焼)	甕	B	SK01 周辺		-				1/18		
25	土師器	小皿	B	SK01 周辺		(7.9)			1/6	1/6	体部1/6弱	
26	陶器(丹波焼)	攢鉢	B	SK02		(22.75)			1/12			
27	陶器(丹波焼)	甕	B	SK03		(28.8)			1/36			
28	土師器	重	B	P08		(13.8)	(2.4)	-	1/7			
29	土師器	重	B	P08		(12.8)	(2.7)	-	1/5		体部1/5	
30	土師器	杯	B	P05		(10.3)			1/3	1/3	体部1/3	
31	土師器	高杯	B	P03		(19.9)			1/9			
32	土師器	重	B		包含層	(13.5)			1/6弱	1/6弱	体部1/6弱	
33	須恵器	甕(脚部)	B		包含層	-			1/8			
34	須恵器	高杯(杯)	B		下層 包含層	(13.4)			1/6			
35	須恵器	杯身	B		下層 包含層	(11.9)			1/6			
36	須恵器	塊	B		下層 包含層	(13.6)			1/5	1/5		

No.	種別	基壇	出土地区	出土遺構	層位	法量(cm)			残存			備考
						口径	器高	底径	口縁	底	他	
37	須恵器	鉢	C	P01		(29.6)	(6.3)	—	1/9強			
38	土師器	皿	C	P04		(8.8)	1.5	(4.3)	1/9			
39	土師器	皿	C	P09		(11.0)	1.9	(6.1)	1/7			
40	土師器	皿	C	P17		(9.9)	1.6	(4.3)	1/12			
41	土師器	皿	C	P18		(12.0)	2.5	(6.0)	1/4	1/4	体部1/4	
42	須恵器	夷	C	P26		(18.0)	(2.1)	—	1/12			
43	青磁	碗	C	P30		(13.8)	(1.6)	—	1/36			
44	弥生	壺	C		下層 包含層	(12.15)	(11.85)	—	1/4		体部1/4	
45	須恵器	杯蓋	C		下層 包含層	(13.0)	4.1	—	1/9		体部1/9	
46	土師器	尚杯	C		下層 包含層	—	(7.0)	10.1	5/9		体部5/9 杯部	
47	須恵器	杯B	C		包含層	(14.0)	3.6	(9.6)	1/12	1/12	体部1/12	
48	須恵器	杯蓋	C		包含層	(14.85)	(1.5)	—	1/9			
49	丸器	塊	C		包含層	(11.9)	(3.25)	—	1/6			
50	瓦器	塊	C		包含層	—	(1.0)	(4.15)			5/12	
51	土師器	皿	C		包含層	(6.9)	(1.65)	(1.6)	1/4	1/4	体部1/4	
52	釋文	夷	A-3		包含層	—	—	—			破片	
53	丹波焼	挂鉢	C	P03							体部	
54	須恵器	小片	C	SK02							体部	

表5 出土石器 法量表

報告 No.	種別	器種	出土地区	出土遺構	層位	法量				備考
						長さ	幅	厚み	重量	
S1	崩翼	砥石	A-2	面積食&側溝		6.95	3.5	0.55	26.9	完形
S2	打製	スクレイバー	B		包含層	3.55	3.25	1.15	13.6	完形

表6 出土金属器 法量表

報告No.	地区	遺構	層位	器種	長(cm)	巾(cm)	厚(cm)	備考
M 1	4 T	—	—	劍	(4.35)	0.45	0.4	
M 2	B	—	包含層	釘?	2.45	0.5	0.85	復元長6.1
M 3	A - 1	SX04	—	劍	(5.4)	(0.53)	0.5	
M 4	B	—	包含層	釘	(4.9)	0.5	0.7	
M 5	B	—	包含層	釘	(4.7)	0.55	0.55	
M 6	B	—	包含層	釘	(4.7)	0.8	0.6	
M 7	A - 1	SX01	—	劍	(4.45)	0.5	0.4	
M 8	A - 1	P62	—	劍	4.2	0.5	0.5	復元長4.7
M 9	B	—	包含層	釘	3.7	0.68	0.5	復元長4.2
M10	B	—	包含層	釘	3.65	0.65	0.75	
M11	A - 2	西精査	—	釘	(3.55)	0.65	0.55	
M12	A - 2	SX04 III区	—	釘	(3.45)	0.65	0.6	
M13	B	SK04	—	釘	2.7	0.5	0.3	
M14	B	—	包含層	釘	(2.35)	0.4	0.4	
M15	A - 2	SX04 II区	—	釘	(2.2)	0.6	0.5	
M16	A - 1	機械掘削	—	釘	(2.1)	0.5	0.35	
M17	—	人力掘削	—	釘	7.3	0.5	0.5	
M18	A - 1	P06	—	釘	4.6	0.64	0.64	
M19	B	SD02	—	鍼	(5.5)	1.15	0.6 1.22	
M20	B	—	包含層	包丁	9.4	3.4	0.75	
M21	A - 2	P23	—	鍬	1口径 -	鏃高(3.6)	底径 -	
M22	B	—	包含層	無手	(4.65)	2.8	0.55	
M23	B	SK02	—	スラグ	—	—	—	
M24	B	—	下層包含層	スラグ	—	—	—	
M25	B	—	包含層	スラグ	—	—	—	

第4章　まとめ

1. 遺構

検出された主な遺構は柱穴と土坑である。柱穴は多数検出されたが、いずれの地区においても建物を復元することはできなかった。柱穴の一部では東西方向、南北方向に並んでいる部分があり、方形を呈する土坑も辺を南北に描えている。周囲の現地割に応じるように施設が設けられていたと考えられる。

C地区からは土坑や柱穴から被熱を受けた壁土が出土しており、土壁をもつ建物が存在したと考えられる。全体的に遺構埋土から焼土や炭化物が出土していることから火災にあったことがうかがえる。

2. 遺物の年代

出土した土器の時期は縄文・弥生・古墳・中世におよぶが、遺構に伴って遺物が出土しているのは中世のみである。

中世の土器には土師器、須恵器、瓦器、丹波焼、青磁などがある。瓦器碗が含まれていることから13世紀代のものが含まれ、青磁には細連弁文碗や雷文帶碗があることから15世紀代まで含まれるが、須恵器鉢・丹波焼甕の特徴や土師器皿は口縁部下のユビオサエが強く施されるものが多くみられることから14世紀代を中心とするものと考えられる。

3. 大山荘と門前遺跡

門前遺跡は中世の著名な荘園である大山荘内に位置している。大山荘は承和12年（845）に東寺に施入された荘園で、篠山川以北の旧大山村域の広大な領域を荘域としている。

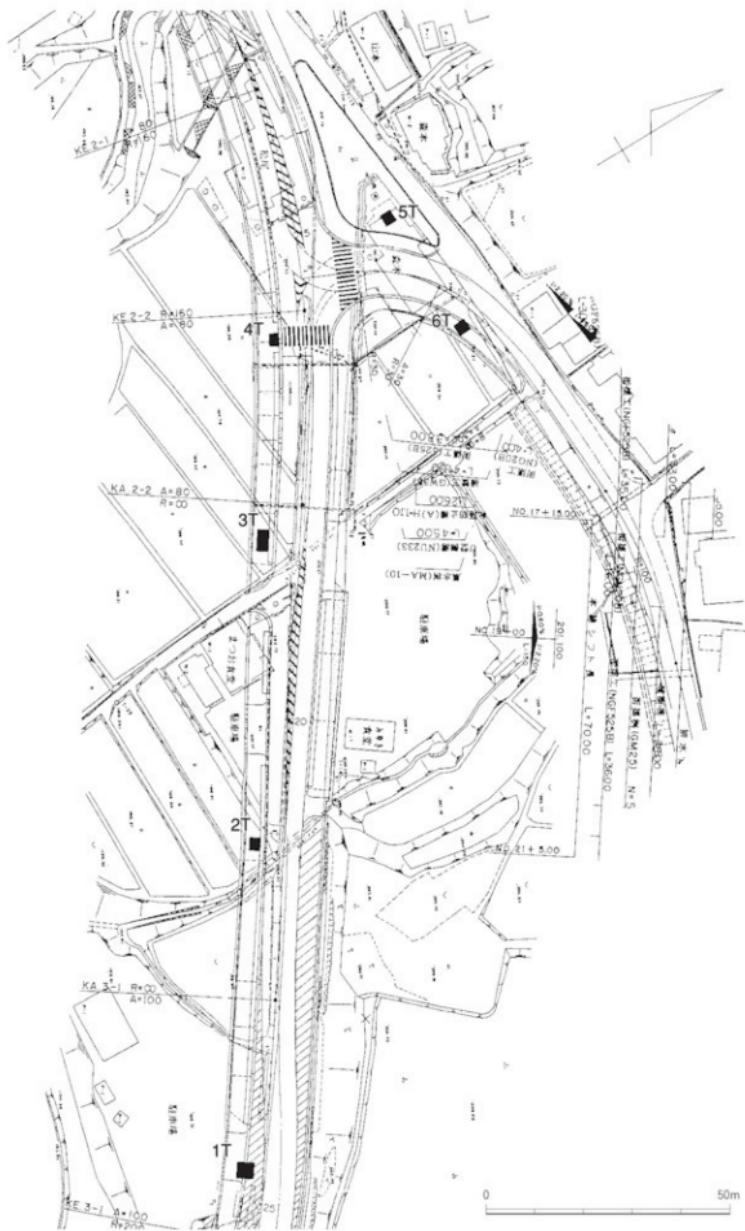
遺跡の名称である「門前」とは調査地の北側にかつて存在したとされる「長安寺」の門前に由来するものと考えられる。長安寺は貞享2年（1658）の「大山村古跡覚書」によって中沢氏の菩提寺との伝承が伝えられている。中沢氏は承久の乱後、大山荘の地頭に補任された一族である。地頭補任以降その勢力を強め、永仁2年（1294）には下地中分により田地25町などをその手に收め、文明14年（1482）以降は東寺方の代官も務め荘園全体に支配を及ぼしていたと考えられている。門前遺跡のやや東、池尻谷の口付近に位置する殿垣内B遺跡では13世紀後半～15世紀初頭の居館の堀と推定される遺構が検出されており、地頭屋敷の存在が推定されている。

字内垣内に所在する長安寺跡の南側には近世の大坂街道（古代の山陰道）が東西に通り、街道の南側に門前遺跡は位置している。C地区的北側には「大町」という俗称地名も存在している。門前遺跡の調査成果は、中沢氏が池尻谷に本拠を置いていたと推定される時期と一致し、地頭配下における寺院門前の町場の一端を示しているものと考えられる。

参考文献

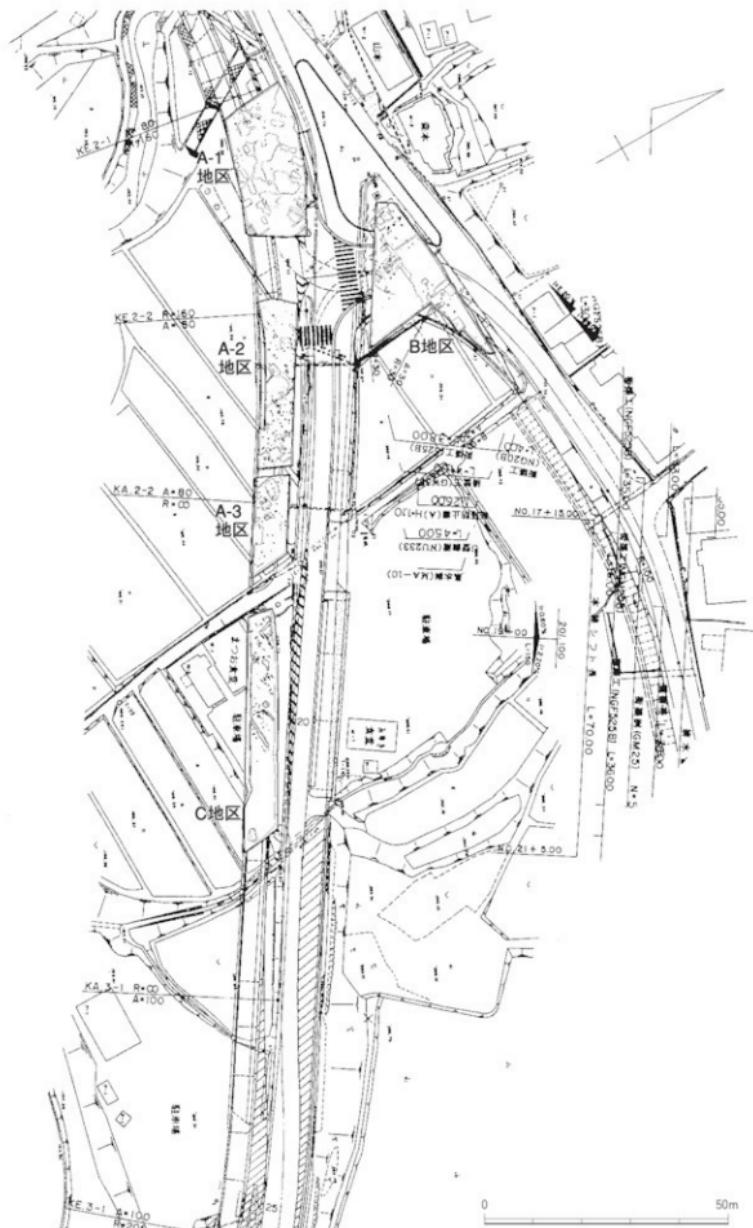
- 大山喬平編『中世荘園の世界 東寺領丹波国大山荘』 1996年
西紀、丹南町教育委員会『丹波国大山荘現況調査報告V』 1989年

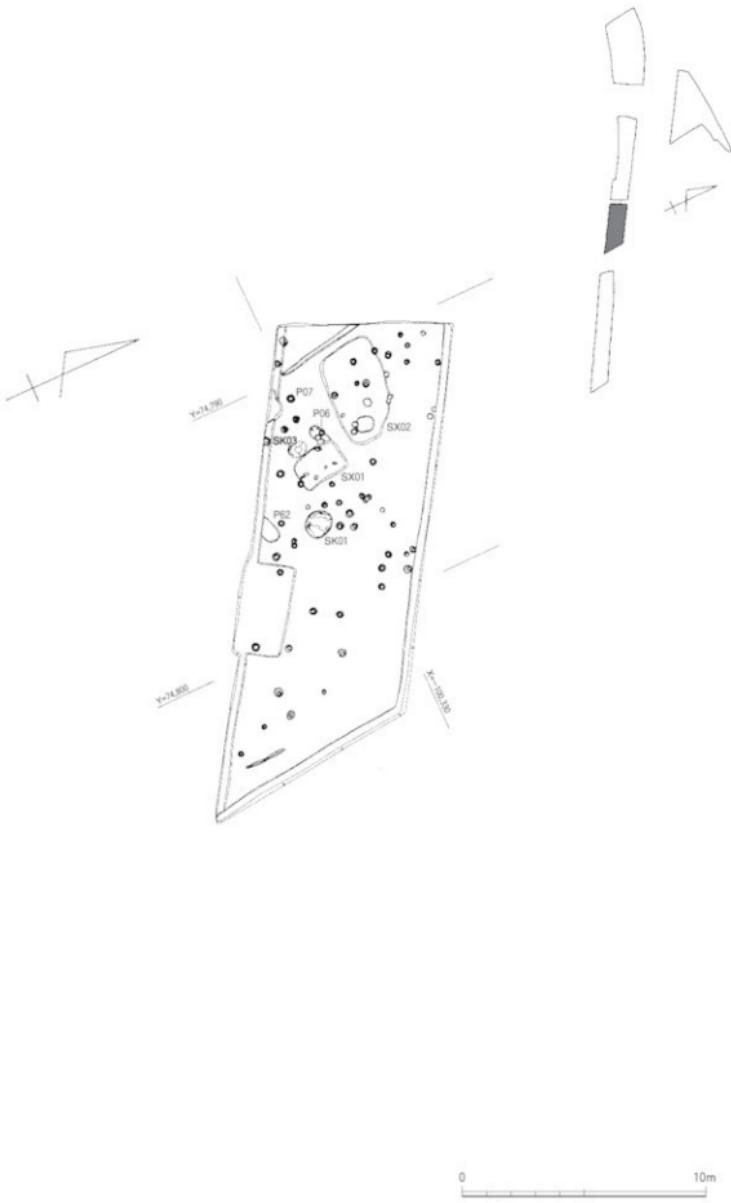
図 版



確認調査トレンチ位置図

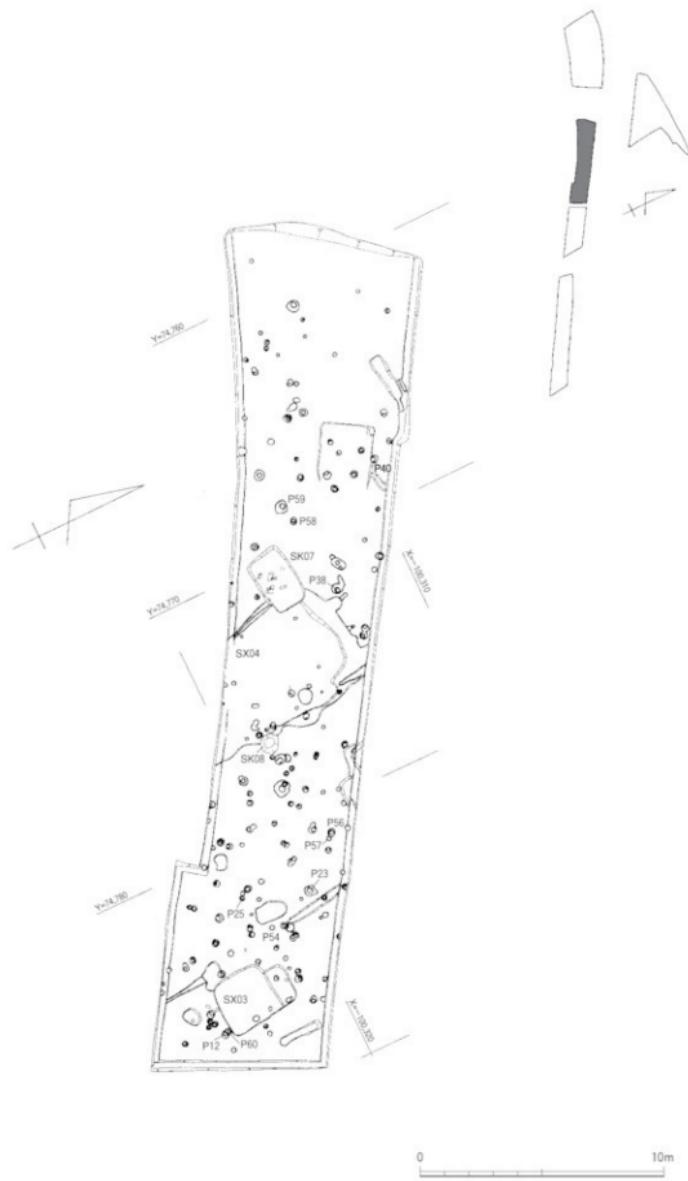
図版2
遺構





調査区平面図（A-1 地区）

図版 4
遺構

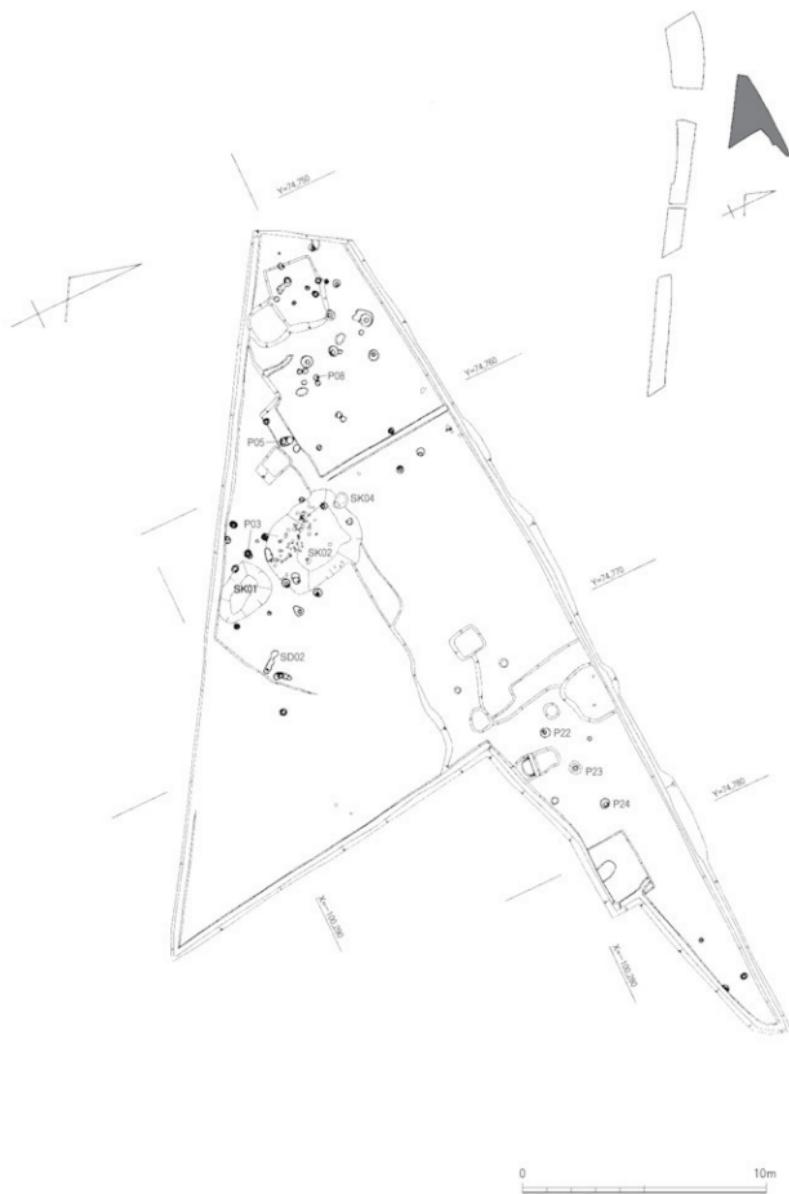


調査区平面図（A-2 地区）

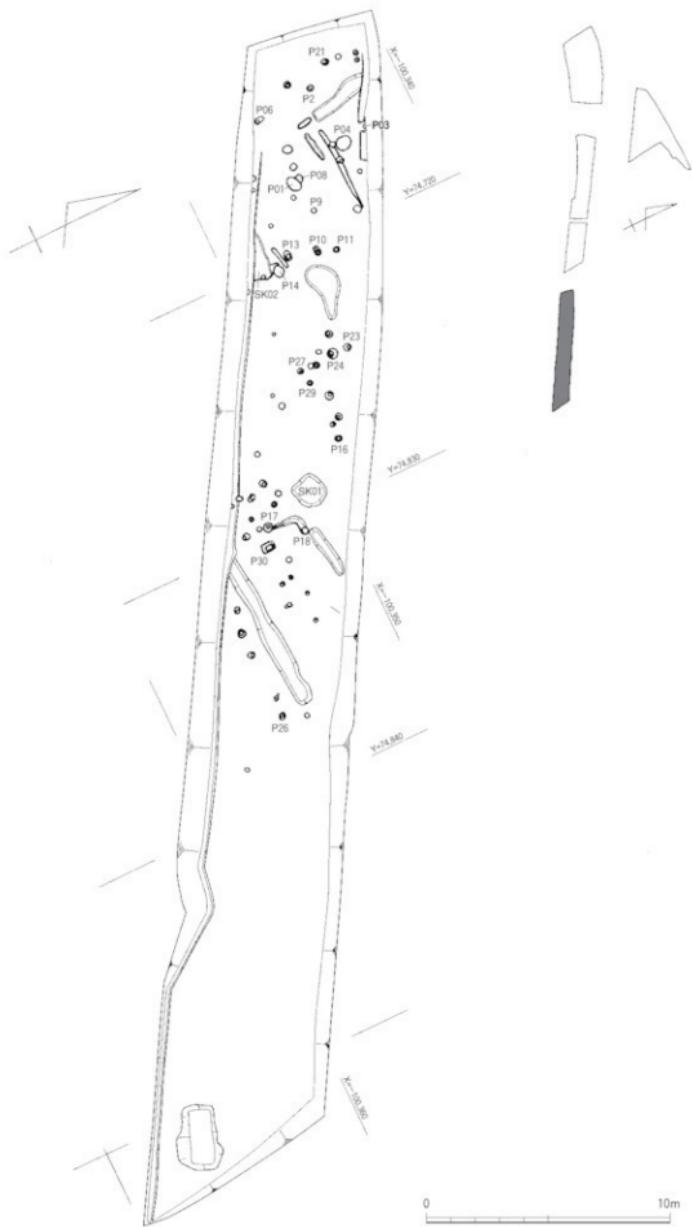


調査区平面図 (A-3 地区)

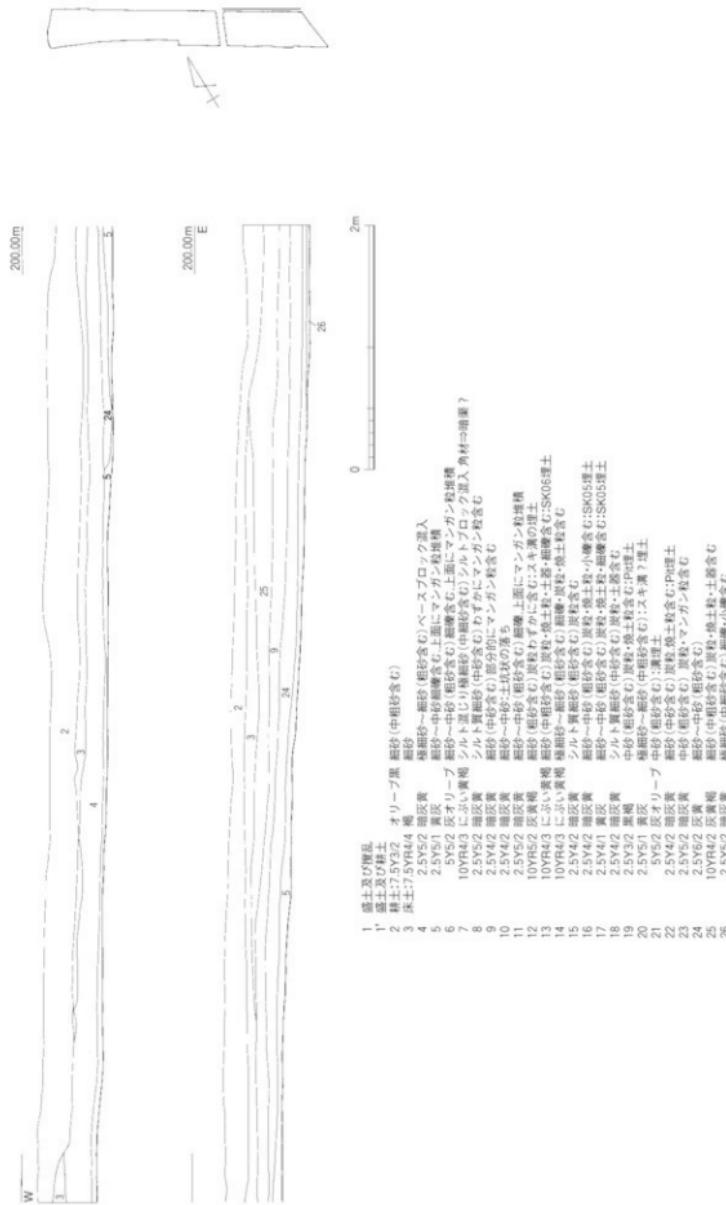
図版6
遺構



調査区平面図（B地区）



調査区平面図（C地区）

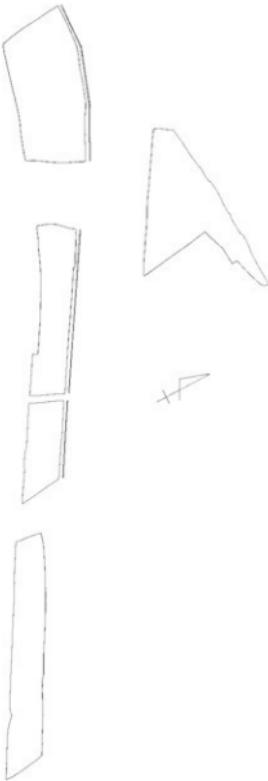




調査区断面図（A-2 地区）北壁



1	盛土	
2	擁土	縫おり一アーチ構造～中央の組合せ含G) 岩井・佐野内・小峰含G
3	井干	2.5y5/3 縫おり一アーチ構造 中央(組合せ含G) 及び・土井内・小峰含G
4	井干	2.5y4/3 オリ一アーチ構造 中央(組合せ含G) 及び・土井内・小峰含G
5	床	10y4/4/3 に、少い黄褐色 中央(組合せ含G) 及び・土井内・小峰含G
6		10y5/3 に、少い黄褐色
7		2.5y5/3 に、少い黄褐色
8		10y4/3 に、少い黄褐色
9		2.5y4/3 に、少い黄褐色
10		10y4/2 反アーチ構造
11		10y3/4 反アーチ構造
12		10y3/3 反アーチ構造
13		10y4/3 に、少い黄褐色
14		10y4/3 に、少い黄褐色 中央(組合せ含G) 及び・土井内・小峰含G
15		2.5y5/3 黄褐色
16		2.5y5/3 黄褐色
17		2.5y6/3 に、少く含G
18		10y3/3 黄褐色
19		10y4/4 黄褐色
20		10y5/3 に、少い黄褐色
21		

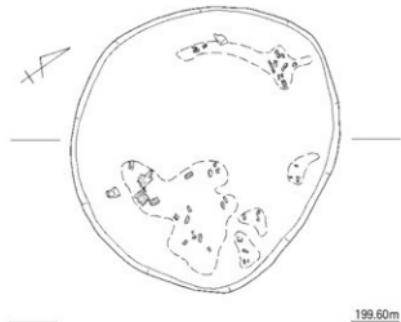


調査区断面図（A地区）北壁注記

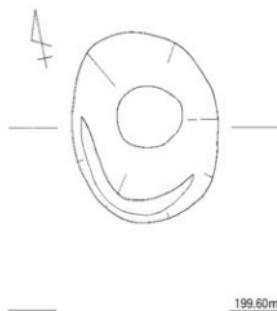
202.00m
W

調査区断面図 (C地区) 南隣

SK01



SK03

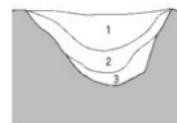


199.60m

199.60m

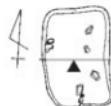


- 1 7.5YR3/2黒褐 シルト混じり細砂～中砂(マンガン粒多量に含む)
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐 細砂～中砂(炭酸塩少量に含む)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂～中砂(小礫含む・炭多量に含む)



- 1 2.5Y4/2暗灰黃 細砂(中粗砂含む)炭粒・焼土粒・小礫・土器含む
- 2 2.5Y5/2暗灰黃 シルト混じり粗砂(中粗砂含む)炭粒・細礫含む
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂(中粗砂含む)

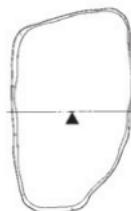
SK01



199.60m



10YR4/3 にぶい黄褐 細砂(中砂含む)炭粒・小礫含む



199.60m

SK01

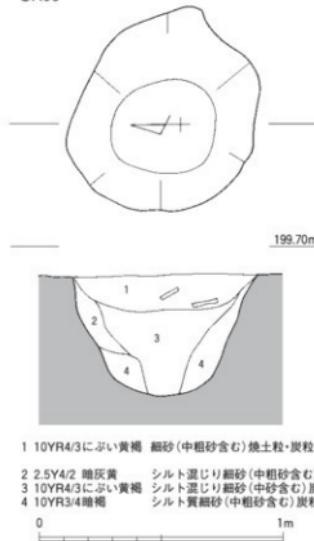


- 1 2.5Y5/2 暗灰黃 細砂(中砂含む) 細礫・炭粒・焼土粒含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂(中砂含む)
- 3 10YR4/2暗灰褐 シルト混じり細砂～中砂(粗砂・細礫含む)
- 4 2.5Y5/2 暗灰黃 シルト混じり細砂～中砂



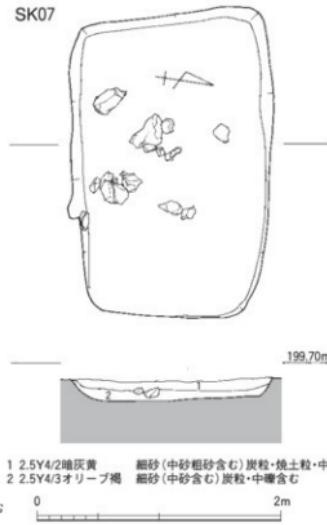
A - 1 地区遺構 (土坑・不定遺構)

SK08



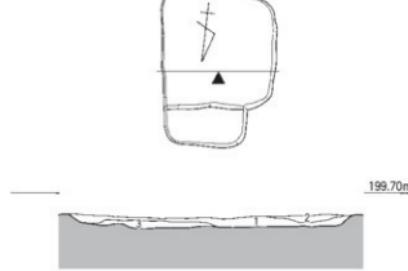
- 1 10YR4/3にぶい黄褐 細砂(中粗砂含む)焼土粒・炭粒多量に含む 土器含む
ベースブロック混入
 - 2 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト混じり細砂(中粗砂含む)炭粒・焼土粒含む
 - 3 10YR4/3にぶい黄褐 シルト混じり細砂(中砂含む)炭粒・小礫・ベースブロック含む
 - 4 10YR3/4暗褐 シルト質細砂(中粗砂含む)炭粒含む
- 0 1m

SK07

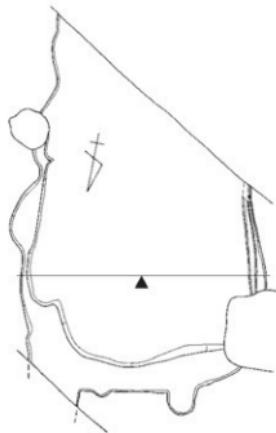


- 1 2.5Y4/2暗灰黄 細砂(中砂粗砂含む)炭粒・焼土粒・中礫含む
 - 2 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂(中砂含む)炭粒・中礫含む
- 0 2m

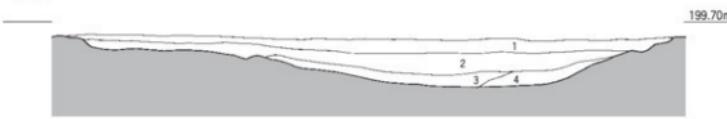
SX03



- 1 10YR3/4暗褐 細砂(中砂含む)炭粒・焼土粒多量に含む 小礫・土器含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂～中砂・細礫・小礫含む 炭粒少々含む
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂(中砂含む)、ベースカ？



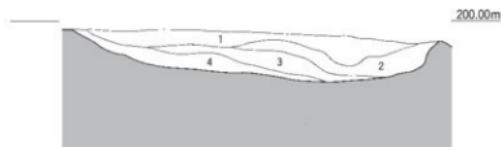
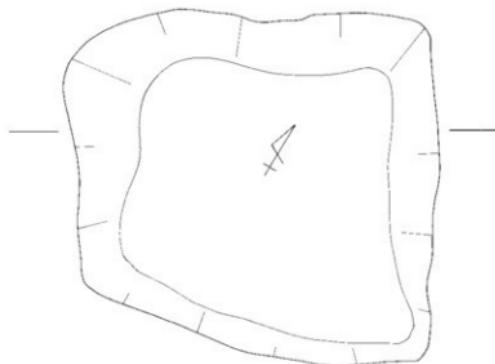
SX04



- 1 10YR4/3にぶい黄褐 細砂～中砂 細礫・小礫・焼土粒・炭粒・マンガン粒・土器含む
 - 2 2.5Y4/4 オリーブ褐 細砂(中粗砂含む)細砂・小礫・炭粒・土器含む
 - 3 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質細砂(中粗砂含む)細砂・炭粒・ベースブロック・土器含む
 - 4 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト混じり細砂(中粗砂含む)炭粒・細礫含む
- 0 2m

A-2地区遺構（土坑・不定遺構）

SX09



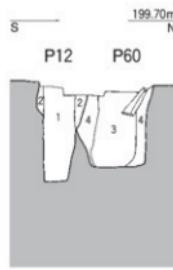
- | | |
|----------------|---------------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | 細砂～中砂(粗砂含む)細礫～小礫・炭礫・焼土粒・土器含む |
| 2 10YR4/2 灰黃褐色 | 細砂(中粗砂含む)小礫・黃灰色ベースブロック多量に含む |
| 3 7.5YR4/3褐 | 細砂(中粗砂含む)小礫・黃灰色ベースブロック若干・炭粒少量含む |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | 中砂(粗砂含む)小礫・炭粒含む |



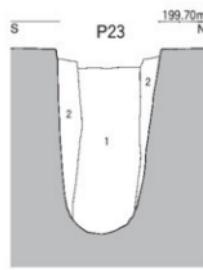
A - 3 地区遺構（不定遺構）

図版16

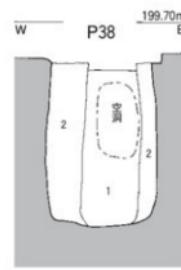
遺構



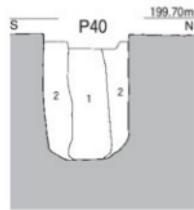
- 1 10YR4/1 褐灰 細砂～中砂(粗砂含む)
炭粒・炭灰・中砂含む
- 2 10YR4/2 褐黃褐 細砂～中砂(粗砂含む)
細砂(中粗砂含む)
- 3 10YR2/2 暗褐 細砂(炭粒・陶器片含む)
- 4 10YR4/3 にびい黄褐 細砂(中粗砂含む)
細砂含む



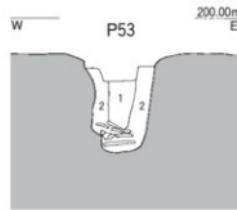
- 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐 細砂(中砂含む)
下層に(10YR4/6褐 細砂ブロック)混入。
炭粒・焼土粒含む
- 2 2.5Y4/2暗灰 黒ト混じり細砂(粗砂含む)



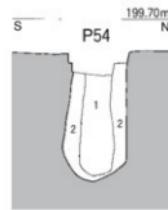
- 1 2.5Y4/2 暗灰 黒ト質細砂(中砂含む)
炭粒・細砂・小礫含む
- 2 10YR4/3 にびい黄褐 黒ト混じり細砂(中粗砂含む)
炭粒・細砂・ベースブロック含む



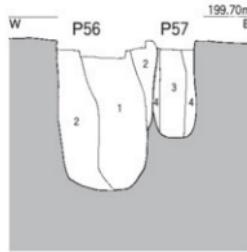
- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐 極細砂(中砂含む)
炭粒・焼土粒
- 2 10YR4/3 にびい黄褐 細砂



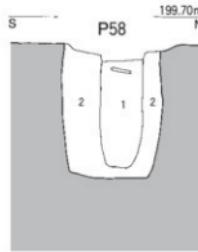
- 1 10YR4/4褐 中砂(粗砂含む)
灰白シルトブロック混入。炭粒含む
- 2 10YR4/3 にびい黄褐 細砂(中粗砂含む)
炭粒・底部に須恵器・丹波焼等多量に含む



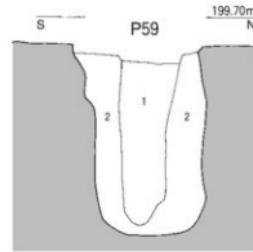
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 細砂(中砂含む)
土器含む。部分的にシルトブロック含む
- 2 10YR4/3 にびい黄褐 細砂(中粗砂含む)



- 1 10YR3/3暗褐 細砂～中砂(粗砂含む)
炭粒・焼土粒・細砂・ベースブロック含む
- 2 10YR3/4暗褐 細砂(中粗砂含む) 細砂・炭粒含む
- 3 10YR4/3 にびい黄褐 細砂(中粗砂含む)
- 4 10YR4/4褐 細砂(中粗砂含む)
炭粒・細砂含む



- 1 10YR4/3 にびい黄褐 細砂(中粗砂含む)
炭粒・焼土粒・小礫上面にあり
- 2 10YR4/4褐 極細砂～細砂(粗砂含む)
細砂・炭粒含む

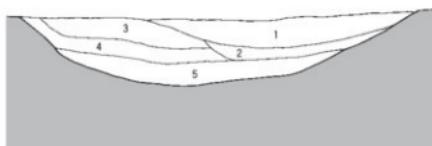


- 1 10YR4/3 にびい黄褐 シルト混じり細砂(粗砂含む)
炭粒・細砂含む
- 2 10YR4/3 にびい黄褐 細砂(粗砂含む)
細砂・炭粒・焼土粒含む



A地区遺構（ピット）

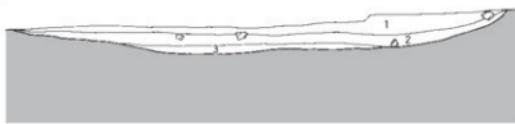
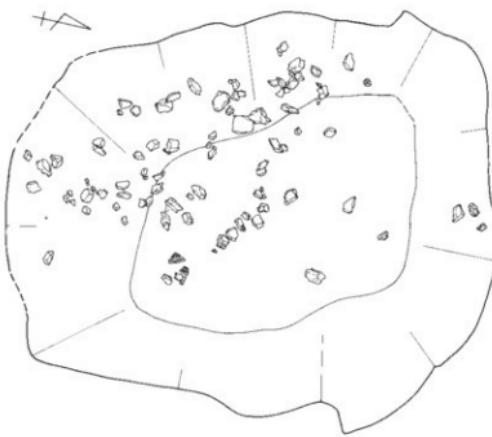
SK01



- 1 2.5Y5/2暗灰黄 細砂(中粗砂含む)小礫・炭粒含む
- 2 2.5Y4/2暗灰黄 シルト混じり細砂(粗砂含む)小礫・土器含む
- 3 2.5Y5/1灰黄 細砂(粗砂～細礫含み)小礫・炭粒
- 4 2.5Y5/2暗灰黄 シルト混じり細砂(粗砂含む)小礫・炭粒
- 5 2.5Y5/2暗灰黄 シルト混じり細砂(粗砂～細礫含む)4層より粘性強い



SK02



- 1 10YR4/3にぶい黄褐 細砂～中砂 細礫～中礫含む 焼土粒わずかに含む
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト混じり細砂(中粗砂含む)土器片・炭粒・細礫～中礫含む

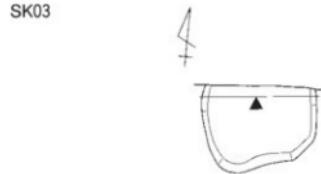


B地区遺構（土坑）

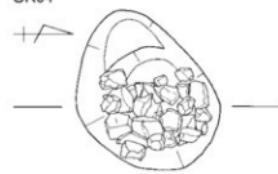
図版18

遺構

SK03



SK04



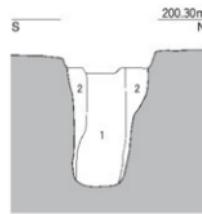
200.30m

200.10m



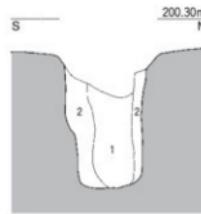
1 10YR5/3にぶい黄褐 極細砂 黄褐色シルト細砂～小礫多、炭化物含む
2 10YR3/3暗褐 シルト細砂～粗砂・小礫混 炭化物含む

P22



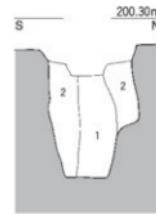
200.30m

P23



200.30m

P24



200.30m



B地区遺構（土坑・ピット）

SK01



SK02

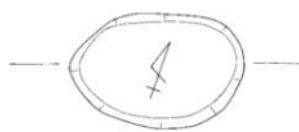


1 10YR4/2灰黃褐色 シルト質極細砂(焼土塊を多く含む)SK02埋土
2 焼土

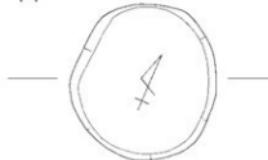


C地区遺構（土坑）

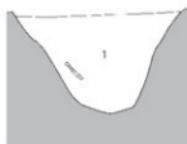
P1



P4

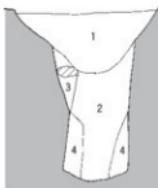


199.20m



1 10YR4/2灰黄褐 シルト質極細砂～極細砂(炭～焼土塊含む)

198.50m



- 1 10YR4/1褐色
シルト質極細砂
(炭・焼土を含む)
2 10YR4/2灰黄褐
シルト質極細砂
(炭粉を含む)
3 10YR5/2灰黄褐
シルト質極細砂
4 10YR5/3にぶい黄褐 シルト質極細砂

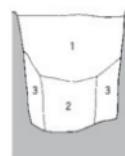
P14



P21



199.20m

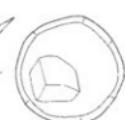


- 1 10YR4/1褐色
シルト質極細砂
(炭・焼土を多く含む)
2 10YR4/1褐色
シルト質極細砂
(炭粉を含む)
3 10YR4/2灰黄褐 シルト質極細砂～極細砂

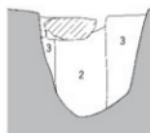
199.10m



P24



199.20m



- 1 10YR4/3にぶい黄褐 シルト質極細砂～極細砂
(炭を含む)
2 10YR4/2灰黄褐 シルト質極細砂
3 10YR4/3にぶい黄褐 シルト質極細砂～極細砂

P30



198.90m



- 1 7.5YR5/1褐色
シルト(2.5YB/4淡赤 シルト混)
2 2.5YB/4 淡赤
シルト(7.5YR5/1褐色 シルト混)

0

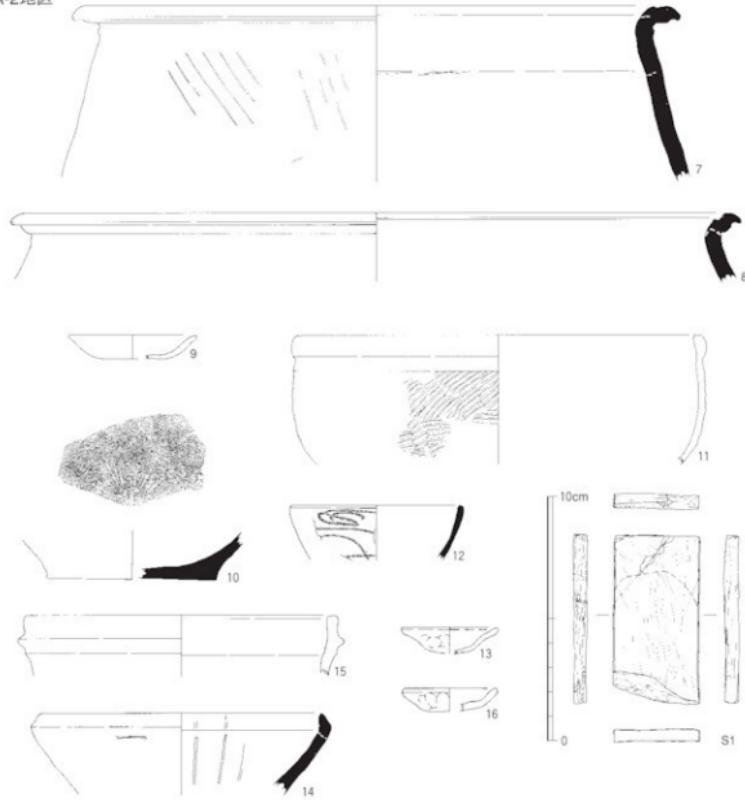
1m

C地区遺構（ピット）

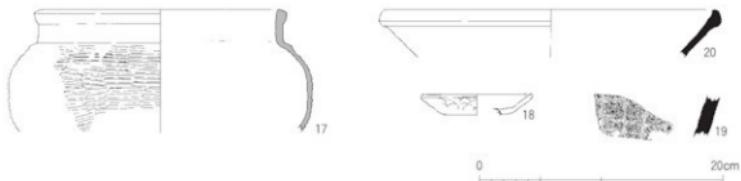
A-1地区



A-2地区



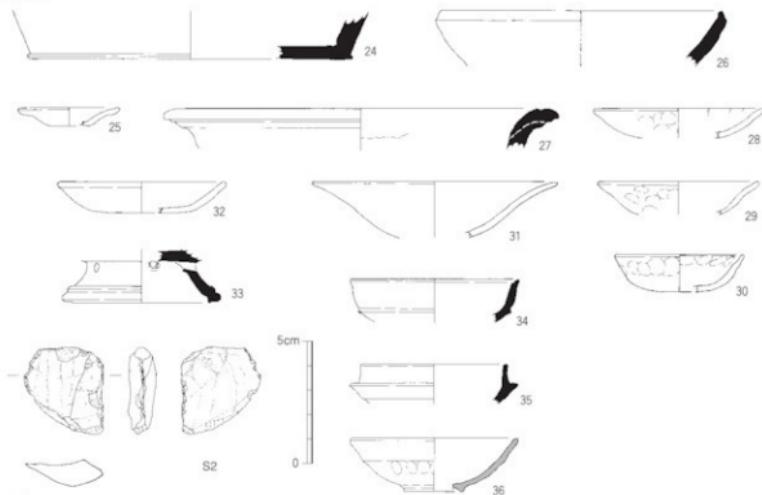
A-3地区



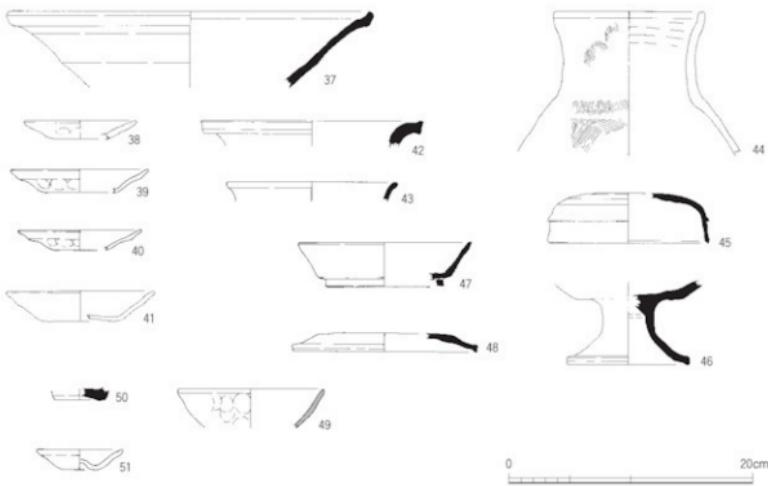
出土土器①



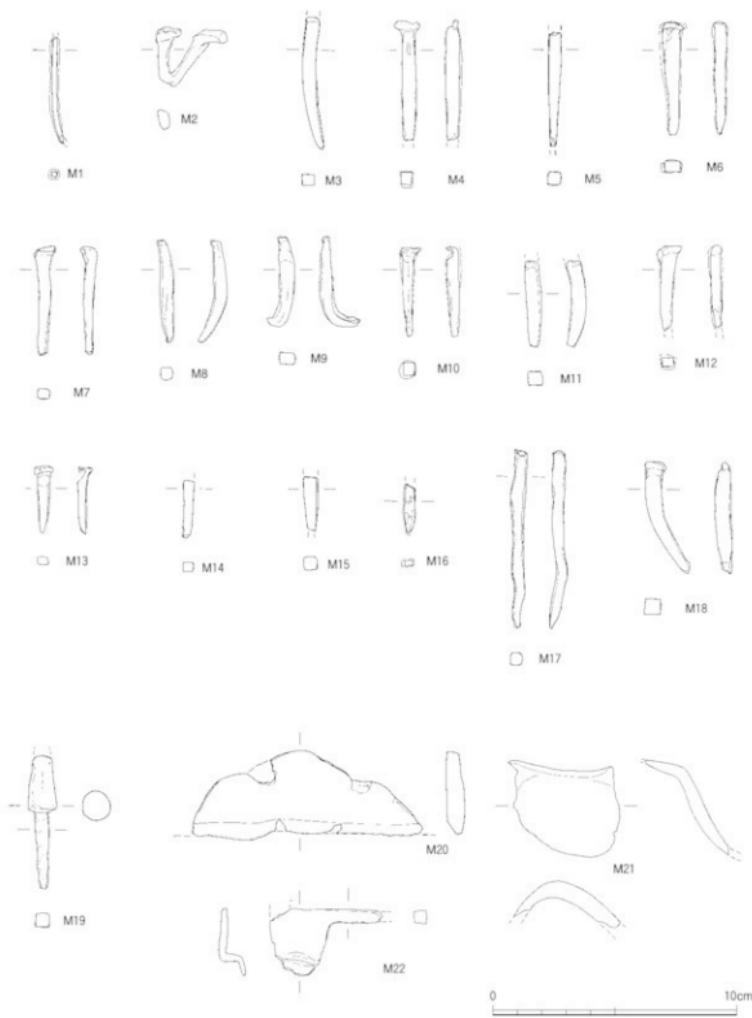
B地区



C地区



出土土器②



出土金属器

写 真 図 版



A-1 · A-2地区 全景 (西から)

写真図版2

遺構



A-1地区 全景（西から）



A-1地区 全景（東から）



A-2地区 全景（東から）



A-3地区 全景（東から）

写真図版4
遺構



A-1地区
SK01畦（南東から）



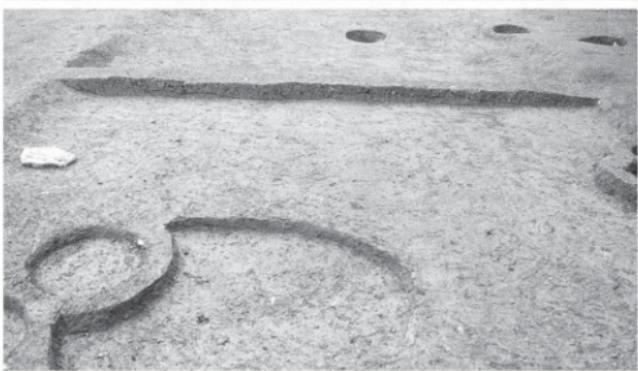
A-1地区
SK01（上から）



A-1地区
SK03断面（南から）



A-1 地区
SX01 (東から)



A-1 地区
SX02畦 (東から)



A-2 地区
SK08畦 (西から)

写真図版6

遺構



A-2地区
SK07畦（東から）



A-2地区
SK07（北から）



A-2地区
SX03畦（北から）